

K S K O

イマージュ

2014年8月

1991年9月3日 第三種郵便承認

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

ルンタ

(風の馬)
いい風よ吹け

作・演出 金満里

音楽 ウォン・ウインツァン

山本公成

絵画 ウゲン・ナムゲン



表紙イラスト／メラミキコ

チベットの空に思いを馳せ、出会った「ルンタ」
厳しい自然の中、五色の旗がはためき、人は祈る
そして梅田のど真ん中
赤い観覧車が回り、大地と天の間に響き出す音

風待ちやってても らちが明かん

態変旋風、宇宙に反旗を翻す！

ルンタ（風の馬）　　いい風よ吹け

チベットの地に生きる人々の、自然に対する畏敬の念と、共に生きる思想が、とても美しいと思い、いつか態変の身体でやれる時がくればいいな、と思っていた。最近ますます強まる、物質消費文明の加速と世界の貧富の差、そして過剰に選択を迫られ心から満足を得られないようになってしまっている近代社会に生きる我々にとって、このチベットの有り方は、精神を柱に周りの環境を取り入れる方法の一つの啓示だと思う。人間の存在がこの先の未来にとって、宇宙の摂理に許されるのならば、収奪と搾取をせずみんなと共に手を携えて、無いものを分けあつて静謐にシンプルに生きることではないであろう。

自分の頭で考えて、自分の力を信じて、人と強く繋がろうとする、緩やかな無我の心。

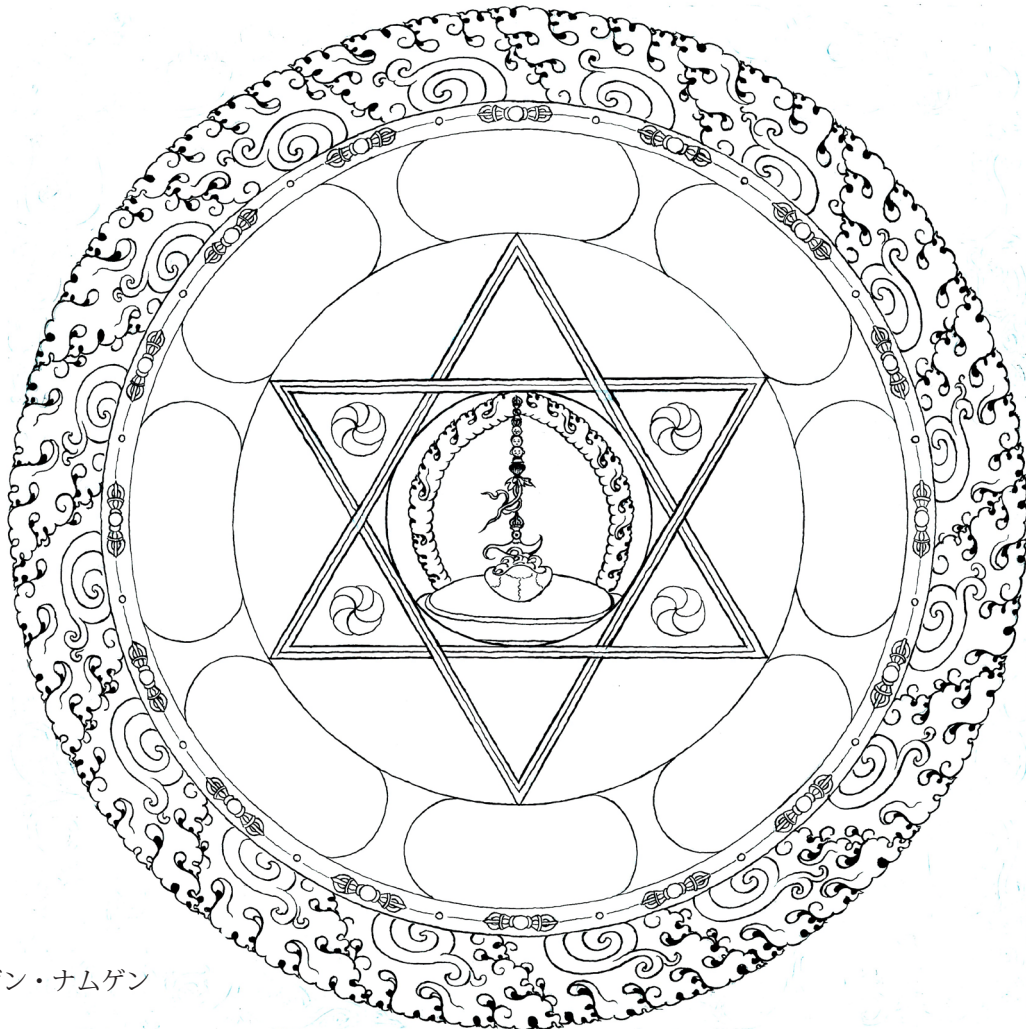
それを、人間臭く、貪欲に、今回は描いてみたい。

この矛盾する相容れない両極のものが、態変の身体表現の醍醐味だと思う。

とうとう、その核心に触れられる、態変の真骨頂を追求できる時期にきた、と。

ワクワクと胸を高鳴らせ、ルンタで風を感じそして起こし、旋風としてお届けする日も近い。

金満里



「アーティストが乱世に吹かせる風のはじまり」

鼎談 ウォン・ウィンツァン × 山本公成 × 金満里

『ルンタ（風の馬）〜いい風よ吹け〜』で音楽を担当する、ウォン・ウィンツァン氏と山本公成氏。

ウォン氏は、2012年「ミズスマシ」で、山本氏は2013年「Over the Rainbow - 虹の彼方に」で、それぞれ態変とコラボレーションを果たしているが、2人揃っての共演は今回が初めての事となる。両氏は古くから親交があり、その出会いは40年前にも遡るという。そんなお二方と金満里が、今作への思いを語り合った。

ルンタとチベット

金満里（以下金） 今回の『ルンタ』では、タイトルからもわかると思うんやけど、チベット仏教の世界観というか宇宙観、死生観がキーワードの1つとして盛り込まれてるねん。

山本公成（以下公成） チベットといえば、「チベット死者の書」という書物があるって・・・

ウォン・ウィンツァン（以下ウォン） バルドウ・トドウルの話？

公成 そう。僕が頸椎の手術で入院して、その後始めてアーティストとして声かけてくれたのが、藤條虫丸っていう舞踏ダンサー。その時の作品が「チベット死者の書」を舞台化したものだったんだよ。だから、死線を彷徨って生き返って、今の地球っていうか、日本の政治的な状況^{3,11以降のいわゆる原発の問題、死出の旅みたいなどころから}、風を吹かせてってイメージかな・・・

ウォン 僕も死者の書には思い出があつてね、チベット密教の修行をした人が知り合いにいて、チベットにいた時にバルドウ・トドウルのお経を全部録音してきたんだよ。それをCDにしてある。それは1度聴く価値あると思うよ。

公成 僕は、今回の作品のためにラグダンっていう、長さ1メートル80センチのチベタンホルンを買っちゃったのよね。ラグダンってのは、風のイメージがすごい。ヴヴヴって・・・

ウォン マジで？ じゃあ俺がジャンジャンジャンジャンってのを鳴らしてあげるからね。



ラグダン

それぞれの共演を経て、今・・・
時代にコミットすること

金 過去2作品を経て、今回お二人がどういう目論見で仕掛けて来てるかということをお聞きたい。『ミ

ズスマシ』の時は、人類はこの地球で必要ないって言われてるんとかやうか、というようなことを思いながら現代音楽と一緒に身体を見せた。で、『Over the Rainbow - 虹の彼方に』（以下、OR）では、地球には人類もいない、宇宙人が捨てられに来るゴミ捨て星になつてていう想定でやった訳やん。だからその次をやるうと思つたら、やっぱり人間の業みたいなものにまた還ってきたんよ。

公成 ORの時は、「Over the Rainbow」っていう、誰しもが名前を聞いたならその曲を思い出してしまふくらいポピュラーな曲があるけども、その概念じゃないんだっていうこと、もともと本心に俺たちは虹の彼方へ行かなければいけないだつてことを伝えようとした。今回についても、ルンタっていう、捉えようによつてはすごい深いし、すごいスピリチュアルだし、すごい宗教的だし、すごいヒーリング的なんだけど、逆にもっと現代音楽的にさらーっとね、ばーんっと突き抜けたところの風みたいなイメージを追求したいなって思ってるのよね。

金 今回一テーマでやりたいのが、もともと人間の性（さが）も業も含めて、宇宙自体にもっと噛み付いていいんちゃうか、ということ。この地球とかこの人類の我々が今こういう時期に来ているってことを、これが運命です、というような宇宙の予定調和にされたくない。

ウォン 実際問題としてさ、僕たちは今日本と世界の第三次大戦かもしれないんだけど、本当に危機的な物を抱えている。やる以上は、今の時代にコミットできるものじゃないとな。

「アーティストが乱世に吹かせる風のはじまり」

鼎談 ウォン・ウィンツァン × 山本公成 × 金満里

公成 それはもう今を生きる我々として、我々というか、それぞれ一人一人の個としてコミットせざるを得ないと俺は思う。今とりわけ問われているのが個としての有り様。戦争へ向かう流れの中でどう抗うのかについていえば、戦前戦中は十把一絡げで拘束されて拷問されて、その中で非転向をどう貫くかとなってると、最後には個が非転向を貫いた。でも非転向を貫いても戦争はやっぱり起ってしまうって、最後には原爆で・・・

ウォン 今言ってたように、個人のレベル、ソーシャルなレベル、そして言うならばスピリチュアルなレベルがあるわけじゃない？ それぞれの位相が同時に存在しないとみんな片手落ちになっちゃう。その3つがアウフヘーベンされた形の表現が可能であれば、それこそアートなんじゃないかな。

公成 俺もそう思うけども、満里の言う宇宙的な彼女のストーリーの中で、やっぱり宇宙の中で存在する地球という視点で物を捉えたい。そこで宇宙的な時間、空間に対して何かを一矢報いたいみたいな。

金 一矢報うというか、反逆を起すというか、宇宙にね。このまま黙って滅びの美学みたいな物に服従はできへんぞっていうところなんやんか、言いたいの。右傾化しているというのはこの日本だけの状況でなく、全世界的な傾向やって言われている。この極東という世界の端に位置する日本にいて、世界を感じられへんではなくて、確実にここに世界のエッセンスが集まってくるわけやん。そういうところで引き寄せてくる地球という世界もあるし、そこから宇宙という物に対してどんなに地球が朽ちて滅びようとも、何か爪痕を宇宙に残してやるぞっていう気持ちがある、いい風を吹かす方へ向かえるんちゃうか。だから滅ばへんぞというか、滅ばさへんぞっていう気持ちに還ってきたというのが正直なところやけどね。

思わず裸にさせてしまふ

ウォン ある意味それぞれのパーソナルな物も、宇宙的な物も、ソーシャルな物も本格的に対峙しないと始まらないよね。僕たち3人は基本的な信頼は持つてる。相手のことを思いやることは大事だと思ってるけど、否が応でも裸になってやっていかざるを得ないと僕は思ってる。

金 そうやな。そういうものを聴いてる人たちも、観ている人たちも、思わず裸にさせてしまふ。結局それがいい風にしたいて物かもしれへんよね。

ウォン だから僕が一番の楽しみは、公成とも満里とも、やっぱりガチで向き合うしかないってこと。そういう意味では本気でやりますよ。まあ覚悟してもらって。

公成 お互いに。

金 お互いにつて、音楽が2人やんか、で私が1人じゃ分が悪いんちゃうかこれ。

公成 そんなことないよなあ！（笑）

ウォン みんなでやるから！

ウォン・ウィンツァン

ピアニスト、作曲家、即興演奏家。19歳よりプロとして、ジャズ、前衛音楽、フュージョンなどを演奏。87年 瞑想の体験を通して、自己の音楽の在り方を確信し、90年よりピアノソロ活動を開始。自主レーベル SATOWA MUSIC より 25 作の CD をリリース。超越意識で奏でる透明な音色に“瞑想のピアニスト”と呼ばれている。

山本公成

ソプラノサックス、フルート、磐笛、ネイティブアメリカンフルート、リトアニアンフレーテ、民俗笛、創作倍音笛の奏者にして作曲家。68年のデビュー以来、即興音楽のパイオニア的存在として活躍。ジャズアーティストのみならず、雅楽、文楽、映像アーティスト、画家など、様々なジャンルのアーティストと共演している。

ウゲン・ナムゲン

チベット仏画師。1977年、チベットのロカ・チュスムに生まれる。11歳より、ラサにてタンカ（チベット仏画）の第一人者であるテンバラブテン師の元、内弟子としての厳しい修行を積む。2005年より大阪在住。現在、タンカの制作・指導活動を行っている。



ルンタ

青・白・赤・緑・黄の五色の旗（タルチョ）に描かれた風の馬。五色は天・風・火・水・地を表し、風に乗ったルンタが空を駆け、仏の教えを広めて願いを天に届けると言われている。祈祷旗を飾る習慣はチベット仏教伝来以前からあるが、時代とともに仏教信仰のシンボルへと変化。チベットでは今日も家々の屋上や寺院などで、ルンタが人々の願いを乗せて風にはためいている。

『ルンタ』 稽古場より

稽古場レポート by 栗園香（スタッフ）

7 月某日、公演に向けての稽古が行なわれました。

今作の特徴はパフォーマーが大勢出演する群舞の場面と、個々のソロ演技の場面が、入り交じっている事でしょう。作品の多面性を生み出す構造ですが、それ故、日によって稽古の雰囲気さがらっと変わります。

この日、行なわれたのは、群舞の場面の全員での稽古でした。

8 月 30 日のプレイベントで上演する予定の場面という事で稽古場にも緊張感が走ります。ソロは、各人の演技により、どんどん作品が変わりますが、群舞の場面は演出家の頭の中にあるものを出して、現実化する作業という側面があり、複雑な行程を決めながら、かつ演技も問われます。

場面が始まると、「もう少し上手へ！位置取り！」「もっと自分の身体性を出して！」「今、どんなつもりでやっとなねん！それではおもしろい！！」演出からは、次々に多方向の注文が飛びます。段取り事と、表現性を同時に求められ、それに応えるべく、奮闘するパフォーマー。

悪戦苦闘の中から、約 1 時間、全員の「カタチ」ができた時に、チベットの風の片鱗を肌に感じました。ここから、更なる稽古を経て、プレイベント、そして本番の舞台にのる時には、爽快なチベットからの風が吹いている事を予感しつつ、この日は終了。

次の稽古場では、今日の行程に加え、さらに演技でパフォーマー達が追い込まれて行くのだろうなあ、と思いつつ、稽古場を後にしました。

パフォーマー座談会
『身体は宇宙だ！』 〜ルンタ編

参加

上月陽平 植木智 山口幸恵

下村雅哉 小泉ゆうすけ

上月 まず感じて居ることは、態変パフォーマーが床面から大気にかけて上下空間を創ること。「ミズスマシ」で水、「Over the Rainbow」で虹、「ルンタ」で風と大地。大自然を感じ、障害者の身体の無限の可能性を追求したいなあ。

植木 今回のテーマは生と死で、昔から答は出ないけど、よく考えてて…前回の稽古で緊張がひどく動けなくなって、意識朦朧として、死ぬに近い共通項があるような感覚して…自分が死に近い存在なんだと感じて… まあでも脳性麻痺は不随意運動があつて死体にはなれないんだけど（笑）生死に向き合える良いチャンスやと思う。HEP ホールは若者のメッカですが、自分も若者やし（笑）。若者は今の世界どうしようもないやんって、すごい無力感を感じてる。「ルンタ」はまさに若者で無力感を感じてる人に観てほしいです。

山口 稽古で印象的だった言葉は「いろんなところからの風」…右からも左からも上からも下からも斜めからも…強い風、弱い風もあるだろうし…自分も風を巻き起こして、色んな人の風も受けて…それを身体で表現したい。

下村 風はドンドン形が変わる。身体も色んな形に変わっていく。

上月 基本 CP は「死にぞこない」やねん。1 回死んで生まれて来てる。仮死状態で生まれて来る。てんかん発作が起きれば、「もうあかん！」って思う。意識が飛ばし、体は痙攣、息できひん…死にかけてる。それをどう演技に活かすか…

植木 てんかん発作もそうやけど、自分が自分で無くなる瞬間が多い…自分ってものが曖昧なんだと思う。

小泉 手綱握ってないねんな…体が勝手に暴れ出す。

植木 だから自然に近いんやと思う。健康体の人は体を支配できる。CP の体は制御不能。それって自然も制御不能やから同んなじや。でもそれをどう捉えるかで…楽しむのもいいし、抗ってみるのもいい。

ルンタを 楽しむ 態変物販

もっと

情報誌 イマージュ

1 冊 500 円（送料込み）／ 年間購読（年 3 回発行）1500 円 ※送料込み

本誌は 1994 年 8 月創刊。劇団態変の定期刊行物として、20 年めを迎えます。
舞台上に描き出す態変と金満里の世界観、またその製作現場をコアにしつつ、
同時代に各々の場所で魂を持ち発信されている言葉に耳を傾け交感しあう場として、
コツコツ発刊を続けております。バックナンバー等詳細はホームページからご覧ください。

神が細部に宿るように、個別性に宿る文化があつてよい。
情報誌『IMAJU』イマージュは、徹底して個別性にこだわった発信を目指してみます。
個別性にこだわりつつ、異文化の交差点を創り出せたら……。 （刊行コンセプトより）



最新号 60 号 8 月下旬発行予定

◎クロスオーバー談義 ウゲン・ナムゲン × 金満里

10 月公演に絵画で参加される、チベット仏画師ウゲン・ナムゲンさんが対談に登場。
チベットの人々に深く根づいた死生観にゆっくりと魅せられて…。 「ルンタ」公演に向けて、必読の一冊！

★ DVD 『ミズスマシ』

2013 年 2 月 AI・HALL（81 分） 3,000 円（送料 180 円）
美術に“鉄”美術の榎忠氏、音楽に「瞑想のピアニスト」ウォン・ウィンツァン氏を迎え、
原始の生命に問いかけた態变的 SF ファンタジー。

★ DVD 『Over the Rainbow - 虹の彼方に』

2014 年 3 月 ABC ホール（57 分） 3,000 円（送料 180 円）
創設 30 周年の劇団態変が、山本公成氏率いる JAZZ ユニットと共演、
崩壊した後の地球を舞台に生命の更なる可能性を描く。
国内観客動員最多の 672 名を数えた記念碑的作品。

★ CD 「mizusumashi」

（12 曲 total 40:19） 2,100 円（送料 100 円）
態変公演「ミズスマシ」で演奏されたウォン・ウィンツァン氏のピアノ・フリーインプロビゼーションより
「膨」「新天地」の 2 タイトル、5 回公演とゲネプロでの収録を編集した CD。

★ 30 周年記念パンフレット

A4 版 26 ページ 1,000 円（送料 215 円）
旗揚げ 30 周年の集大成として製作したパンフレット。
『Over the Rainbow - 虹の彼方に』金満里による上演台本、態変裏方による黒子台本を初公開。
態変の 30 年間のエッセンスがギュッと詰まった態変ファン必携の一冊、残部僅少！

購
入
方
法

同封の郵便振替用紙に下記の事項を記入して、ご送金をお願いします。

口座番号	00920-8-320343
加入者名	イマージュ
振込人住所・氏名	送付ご希望の住所・氏名・電話番号・よろしければメールアドレス
通信欄	お申し込みされる物品名、数量

インターネットからもお申し込みいただけます。詳細は態変 HP へどうぞ！

賛助会員制度ご案内

劇団態変 賛助会員制度へのご支援を！

劇団態変は、活動基盤をめぐる情勢の変化を受け、2012年4月より賛助会員制度を設けております。

3 期目となる現在、この制度に関わる皆様のおかげで、

◎大勢の人が集まり稽古を行う、また企画を行うための「場」を維持すること

◎市民一人一人の生活と直接に関係し、「芸術を生み出す一享受する」という一方向の関係を越えた、

相互に作用しあえる豊かな芸術の在り方へ向かうこと

が可能となっています。

現在もなお劇団存続の危機に変わりはありませんが、今年 3 月の 30 周年記念公演には長年応援して下さっている方にも多く足を運んでいただき、また今後を期待する声にもたくさん触れさせていただきました。劇団態変が、世界に類を見ない芸術で、社会に風穴を開け続けていることにあらためて誇りを持ち、この創造の火を根絶やしにしないよう、ご支援のお願いを続けてまいる所存です。3 期目となり、会員となって下さる方の数が今ひとつ伸びておりません。皆様の力で、劇団態変の活動を支えていただけないでしょうか？

何卒、よろしくお願い致します。

2014 年度 今後の活動予定

賛助会員制度の要項

8 月 13 日 出張パフォーマンス @ カフェバー 楽-raku-

8 月 24 日 ブルースシティ大阪ライブシリーズ <6>

@メタモルホール

8 月 30 日 「ルンタ」プレイベント @メタモルホール

10 月 17 日～19 日 『ルンタ（風の馬）～いい風よ吹け～』

@ HEP HALL

11 月 22 日～24 日 金満里ソロ公演 『ウリオモニ』

@メタモルホール

1 月 金満里身体表現研究所発表会 @メタモルホール

3 月 劇団態変新作公演 『試験管』 @ウイングフィールド

会員の種類・特典

[会員の種類]

個人会員 年会費 一口 5000 円 / 法人会員 一口 20000 円

[会員特典]

- ・会員証発行 毎年絵柄が変わる、会員証をお渡しします。
- ・公演チケット賛助会員割引
個人会員様はチケット料金から 500 円割引、法人会員様は御招待券を一口につき一枚進呈させていただきます。
団体でのご来場の場合、団体様向けの特典もございます。
(詳細は公演時の受付にてお問合せください。)
- ・当該年の態変公演ダイジェスト映像 DVD を、年 1 回進呈

ご入会方法

①郵便振替

この DM に同封の郵便振替用紙にご芳名と送付先を記入いただきお振込をお願いします。差し支えなければ、お電話番号、メールアドレスも合わせてお教えてください。

②PayPal で

メールアドレスとクレジットカードをお持ちのお客様は、PayPal でのお支払いをご利用いただけます。
劇団ホームページからお入りください。
劇団 HP → 「劇団態変」で検索し、日本語トップページから、「賛助会員募集」へと辿ってください。

更新手続きについて

会員の有効期間は年度末までとなります。次年度の更新手続きにつきましては、別途ご案内させていただきます。

「ルンタ」
HEP HALL 公演に先駆け
プレイベント開催決定！

8月30日(土)

① 14:00 ～ ② 17:00 ～

会場 メタモルホール
(JR 東淀川駅徒歩2分)

チケット 500円(要予約)

出演 劇団態変パフォーマー
山本公成(音楽)

ご予約は劇団態変へ！

06-6320-0344

taihen.japan@gmail.com

10月公演「ルンタ(風の馬)～いい風よ吹け～」の一部場面をアレンジして、山本公成さんの即興演奏と合わせて披露します！
公演1カ月前半という作品の練り込みの時期に、30人限定のお客様の前でパフォーマンスを披露するという挑戦的な企画。

—まずは、意気込みを聞かせて下さい—

植木：今は、まだ作品のイメージが付きかけた所です。プレイベントではどんな場面になるか楽しみです。中身の濃いものにしたいです

下村：10月公演の会場 HEP HALL は、若者の町、梅田の真ん中。そこで公演するパワーをパフォーマンスで示したい！

—劇場とメタモルホールでは、舞台上に立つ側の気持ちに違いはありますか？—

山口：私は前回、初めて劇場公演を経験しましたが、広くて、大きな表現ができて、すごい体験でした。メタモルホールは、逆にお客さんが近いので、すぐ目の前で見てもらえる。パフォーマンスをする方にとっては、お客さんの息も感じられて、ドキドキしますね。

—本番より前に、パフォーマンスをするのは大変なのではないですか？—

小泉：今は、新しいパフォーマーが入っていたり、態変もある意味変わりつつある時期。正直、プレイベントは本当に実現出来るか悩んだ時もあるけど、とにかく10月公演に向けて盛り上げていくぞという気持ちで、全員で決断し、やろう！となったんです。

—プレイベントの時期はパフォーマーにとって、いわば悶絶期。本番の舞台に登場するウゲン・ナムゲンさんの絵とも制作段階でセッションできるということ・・・これを観たら、本番が観たくなること、間違いなしです！

劇団態変第61回公演

『ルンタ(風の馬)～いい風よ吹け～』

日時 2014年10月
17日(金) 19:00
18日(土) 13:00 18:30
19日(日) 12:30 17:30
(受付は開演の1時間前、開場は30分前)

会場 HEP HALL
大阪市北区角田町5-15 HEP FIVE 8F
TEL:06-6366-3636

チケット (全席自由 日時指定)
前売 一般3,500円 学生2,500円
シルバー3,000円 障害者介助者ペア6,000円
当日 4,000円

出演 金満里 小泉ゆうすけ 上月陽平 下村雅哉
向井望 山口幸恵 植木智 国頭弘司(新人)他

本公演に出演を予定していた楠本哲郎は降板となりました。

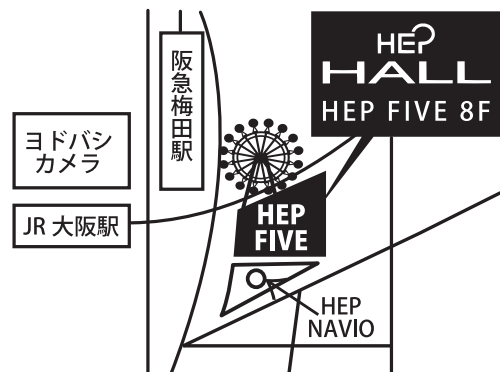
ご予約 態変 office イマージュ

/ お問い合わせ

TEL /FAX 06-6320-0344

E-mail taihen.japan@gmail.com

HP <http://www.ne.jp/asahi/imaju/taihen/>



赤い観覧車のある「ヘップファイブ」のビル、正面入り口のエレベーターで8階までお越し下さい！

★阪急梅田駅から徒歩約3分

★JR大阪駅御堂筋口から徒歩約4分

発行人：関西定期刊行物協会／大阪市天王寺区真田町2-2 東興ビル4F

編集人(返送先)：イマージュ 和田佳子 栗園香 荒川諒也 石井愛 金満里 仙城真

〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路1-15-15

tel/fax 06-6320-0344 e-mail taihenjapan@gmail.com

定価50円